

さんむのふるさと散歩

No.12

山武地区の古墳

最 近新聞やテレビのニュースで注目を集めている話題のひとつに、高松塚古墳の石室(遺体を安置するところ)の壁画の保存修理や、キトラ古墳の壁画の一般公開の記事があります。

ところで、山武市にもかつて新聞紙上を賑わせた古墳があったことを覚えている方はどのくらいおられるのでしょうか。

そこで、今回は山武地区の古墳について紹介します。

平成7年1月5日付けの千葉日報に「山武町北野遺跡五号墳―四世紀前半ごろの可能性―島戸境一号墳の年代遡る―」の見出しで、古墳と出土した鏡の写真が掲載されています。**当**時この記事を読んだ考古学関係者から「山武町にもこんな古い時期の古墳があったのか?しかも鏡まで出土したなんて」という驚きの声がありました。

理由は、それ以前の古墳の存在はあまり知られておらず、また鏡の所有は、埋葬されている人がかなり権力をもっていたことを示すからです。地域史の書き換えを迫る大きな発見でした。

北野遺跡五号墳では銅鏡一面でしたが、島戸境一号古墳では、銅鏡四面が出土しています。時期は四世紀後半ごろのもので、

鏡の所有は権力者の証でもありましたが、希少価値の高い青銅製の鏡はむろんのこと、クワやスキ、鎌などの鉄製農耕具すら当時はその絶対数が少なく、集落みんなの共有財産といった状態でした。

ちなみに現在でも皇位継承の際に引き継がれる三種の神器に鏡も含まれています。

銅製品独特の鈍い光を放つ鏡面にミズラ(当時の男性のヘアースタイルで髪を横に二分して両耳の上で束ねたもの)の顔を映してにんまりする古墳の被葬者が目に浮かぶようです。

北野遺跡全景



島戸境1号墳出土
連弧紋倭鏡



北野5号墳出土



4号墳・5号墳